

こもれび学級

国語科

単元名 あいうえおであそぼう（光村図書 こくご一上）
令和5年 7月10日（月）2校時
児童 こもれび学級1組 1年生6名
場所 こもれび学級1組
授業者 T1大島 丈 T2阿曾 直哉

1. 単元について

（1）学級の児童の実態

こもれび学級1組の1年生は男児5名、女子1名の計6名で構成されている。特性によって学習に向かうこと自体が難しい児童や、集中の持続が難しい児童、人との関わり方に課題がある児童などが在籍している。また、境界知能の児童や学習障害の傾向が強く出ている児童も在籍している。平仮名の習得においては、全員が自分の名前を平仮名で書くことができる。濁音・半濁音・長音・拗音・促音の学習を終え、読み書きできる文字の数も多くなってきている。しかし、発音が不明瞭になってしまったり、書く時に字形が崩れてしまったりすることが多い。児童によっては、平仮名表をデスクマットの下に置き、見ながら書けるようにしたり、お手本をなぞれるようにしたりしている。これまでの国語科の単元を通して言葉集めを行ってきており、語彙や言葉に対する興味・関心を持っている児童は多い。

4月に学習した「うたに あわせて あいうえお」では、母音の響きや口の形を中心に五十音への関心を深めてきた。今回は、平仮名・清音・五十音全ての響きを意識できるようにしていきたい。

（2）研究とのかかわり

研究主題を受け、本学級では、自己肯定感を育みながら、安定した人間関係の形成をもとに、コミュニケーションを高め、児童が互いに成長しあえる基板を作っていきたいと考える。本学級における教科の学習においては、仮説1「児童の教育的ニーズを把握し、実際に応じた課題設定や適切な支援をすることで意欲的に学習に取り組み、生活に必要な力が高まるだろう。」を受けて、以下の目指したい児童の姿を設定する。これにより、児童にとって生活に必要な力が育まれることにつながると思う。

<目指したい児童の姿>

- ①考えを伝え合いながら活動する子ども。
- ②友達と関わり合いや協力しながら、学習を進められる子ども。

実際の生活場面
(生活に必要な力)

上記のねらいを達成するために本学級では、自立活動の要素として、以下の内容と関連させながら指導を行っていく。

特別支援学校学習指導要領（平成30年3月）自立活動

- 3 人間関係の形成 （1）他者との関わり方の基礎に関すること
- 6 コミュニケーション （3）言語の形成と活用に関すること

自閉症のある児童の場合、言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが困難な場合がある。そのため他者の言葉や表情がわかるように、意図的に児童同士の関わりをもたせる活動を本単元の学習内容と関連させて行っていきたいと考える。

2. 単元の指導目標

○平仮名を読み、書くことができる。

[言葉の特徴や使い方に関する事項 ウ]

◎長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づくことができる。

[我が国の言語文化に関する事項 イ]

3. ねらいを達成するための言語活動

オリジナルの「あいうえおのうた」をつくり、友達と読み合おう。

オリジナルの「あいうえおのうた」をつくる際には、子どもが身の回りにある言葉を意識し、それらを使うことを大切にしたい。言葉の響きやリズムを感じ、友だちと確かめ合う活動を通して、何度も繰り返し唱えたり、声を合わせて口にしたりすることを楽しむことができるようにする。「あいうえおのうた」のきまりにしばられすぎることなく、伸び伸びとつくり出すことができるようにしたい。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 平仮名を読み、書いている。 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「あいうえおのうた」の仕組みを理解し、言葉の響きやリズムを考えながら言葉を組み合わせている。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習をいかし、進んで平仮名の五十音を確かめ、言葉遊びを楽しもうとしている。

5. 単元の指導計画（全4時間 本時 2/4）

時数	学習活動	目標	評価規準		
			知	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> 「あいうえおのうた」を知る。 さまざまな読み方で「あいうえおのうた」を読む。 「あいうえおのうた」の仕組みに気づく。 こもれび学級の「あいうえおのうた」作りをすることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「あいうえおのうた」の言葉のリズムを楽しんで読み、言葉のつながりのおもしろさに気づくことができる。 友達と関わりながら「あいうえおのうた」を読むことができる。 	◎		
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 「あいうえおのうた」を読み、仕組みの確認をする。 こもれび学級の「あいうえおのうた」作りをする。(あ～な行) (ペアを作り分担して作る) 自分たちの担当した行を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> リズムの調子のよさを楽しみながら、こもれび学級の「あいうえおのうた」を作ることができる。 友達と相談しながら、言葉を決めることができる。 	○	◎	
3	<ul style="list-style-type: none"> 「あいうえおのうた」を読み、仕組みの確認をする。 こもれび学級の「あいうえおのうた」作りの続きをする。(は～わ行) (ペアを作り分担して作る) 自分たちの担当した行を発表する。 完成した「あいうえおのうた」を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> リズムの調子のよさを楽しみながら、こもれび学級の「あいうえおのうた」を作ることができる。 友達と相談しながら、言葉を決めることができる。 	○	◎	
4	<ul style="list-style-type: none"> 前回作ったこもれび学級の「あいうえおのうた」を読む。 五十音表をさまざまな読み方で読む。 五十音表の特徴に気づく。 しりとり遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 五十音表に親しみ、その特徴に気づくとともに、口形に気をつけて読んだり、しりとり遊びを楽しんだりすることができる。 友達と関わりながらしりとり遊びを進めることができる。 	○		◎

6. 本時の指導

(1) 児童の実態と個別目標

児童	児童の実態	本時の個別目標	個別の手立て	個別目標の評価
A 児 I・A	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名はほぼ全て読み書きをすることができる。ややていねいに書きすぎる所がある。 慣れていない場や人に対して不安を覚える。 他者との交流は控えめで、自分の考えを伝えることが苦手。(場面緘黙) 	<ul style="list-style-type: none"> 友達に自分の考えを伝えることができ、相談しながら「あいうえおのうた」づくりをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に参観があることを伝えておく。 関係性や特性を考えたペアを意図的に組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達に自分の考えを伝えることができている。(観察)
B 児 K・Y	<ul style="list-style-type: none"> 字形を捉えることが苦手で、文字を書くことを嫌がることもある。(鏡文字になることもある) 文章を読むことが苦手で、自分でどこを読んでいるのかわからなくなってしまうことがある。(LD傾向有) 誰にでも話しかけたり、関わりを持ちたりすることができるが、自分優先で人との距離感が近いので、トラブルになることが多い。 授業の流れや時間を気にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを受け入れながら、自分の考えを伝え、「あいうえおのうた」づくりをすることができる。 読んでいる場所を意識しながら、「あいうえおのうた」を読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> あいうえお表を渡しておく。 本時の学習の流れを示し、児童が意欲や見通しを持てるようにする。 字形を捉える活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりしながら活動している。(観察) 指で追いながら読むなど、場所を意識しながら、「あいうえおのうた」を読んでいる。(観察)
C 児 S・K	<ul style="list-style-type: none"> 一部の言葉の発音が不明瞭。(こもれび→こもれりなど) 平仮名はほぼ全て読み書きができる。 誰とでも関わりができるが、自分優先になりやすい。無理やり自分の意見を通そうとする場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを受け入れながら、自分の考えを伝え、「あいうえおのうた」づくりをすることができる。 口の形を意識しながら、はっきりとした発音で「あいうえおのうた」を読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり発声するようにし、正確な発音や口の形がわかるようにする。 関係性や特性を考えたペアを意図的に組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりしながら活動している。(観察) 口の形を意識しながらはっきりとした発音で読んでいる。(観察)
D 児 H・Y	<ul style="list-style-type: none"> 一部の言葉の発音が不明瞭。 字形を捉えることが苦手であるが、書くことを嫌がる様子はない。 語彙が少なく、知らない言葉が多い。 関わり方はこもれび1年生の中で一番穏やかでやさしい。 周りの様子を見て動いたり、書いたりすることで不安を減らしたり苦手な部分をカバーしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「あいうえおのうた」のリズムや調子の良さを理解する。 語彙を増やし、友達のまねをしながら「あいうえおのうた」づくりをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり発声するようにし、正確な発音がわかるようにする。 あいうえお表を渡しておく。 字形を捉える活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「あいうえおのうた」のリズムや調子の良さを理解している。(発表・発言) 友達のまねをしながら「あいうえおのうた」作りをしている。(観察)
E 児 N・R	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名はほぼ全て読み書きをすることができる。字形に少しこだわりがある。 笑顔の時が多いが、嫌なことも笑顔で行ってしまうことがある。 関わり方は全体的に幼さが見え、自分の思い通りにならないと不機嫌になることがある。 授業の流れや時間を気にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを受け入れながら、自分の考えを伝え、「あいうえおのうた」づくりをすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の流れを示し、児童が意欲や見通しを持てるようにする。 ペアでどの行を担当するかはランダムに決めるようにする。(取り合いを防ぐため) 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりしながら活動している。(観察)
F 児 W・K	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味関心の高い事柄に関わる言葉に関しては多い。 机に座り1時間過ごすことは難しい。 自分に対して優しい・許してくれる人とは上手く関わることが多い。 自分の意に沿わないことなどがあると暴言を吐いたり、教室を飛び出してしまったりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 少しでもよいので、授業に参加することができる。 友達との関わり場面を学習の中で作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の様子を見ながら、活動に参加させるかどうかを判断する。 発言はなるべく拾うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と関わり場面を学習の中で作っている。(観察) 本時に関わる発言をしている。(観察)

(2) 目標

- ・リズムの調子のよさを楽しみながら、「あいうえおのうた」を作ることができる。

(3) 展開

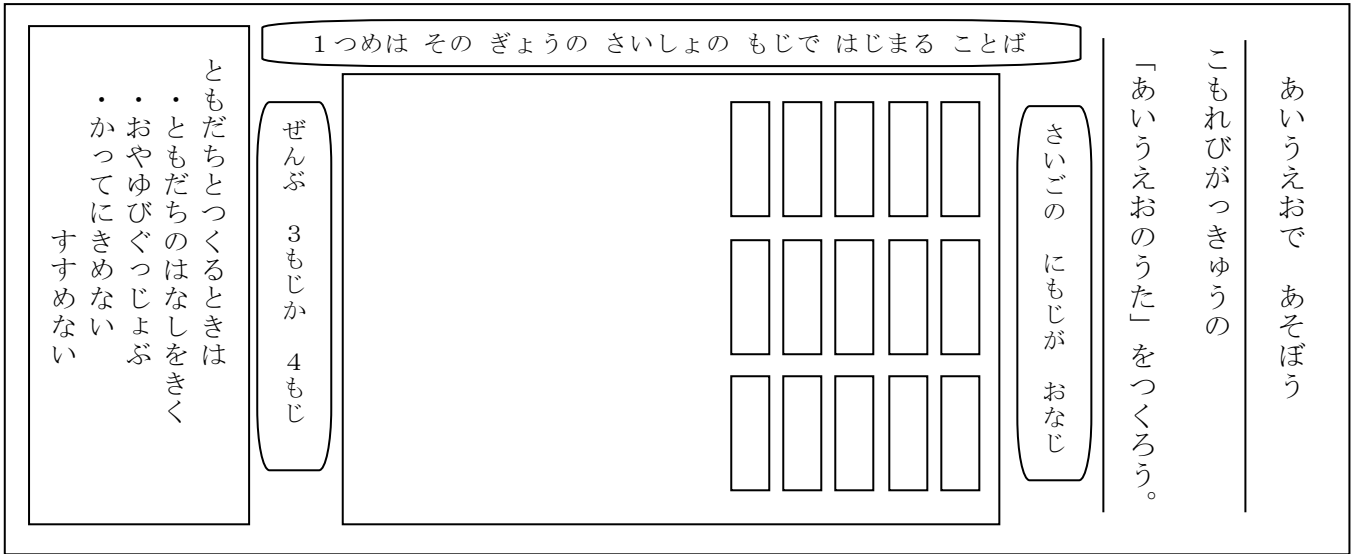
	学習内容と教師のかかわり	児童の活動	◆支援（研究との関わり） ○留意点 □評価 ☆T2の動き
導入	<p>1、五十音の字形を捉える練習をする。</p> <p>○この平仮名はなんでしょう？</p> <p>2、本時の流れを確認する。</p> <p>□ひらがなもんだい □ふりかえり □うたづくり □よんでみよう</p> <p>3、前回の学習を振り返る。</p> <p>○前の時間に調べた「あいうえおのうた」をみんなで読みましょう。（教師→児童の追い読み）</p> <p>○「あいうえおのうた」にはどんなひみつがあったでしょう。</p> <p>○今回と次の時間を使って、こもれび学級の「あいうえおのうた」を作ってみましょう。</p>	<p>・半分や4分の1に折った平仮名を使って何の文字かクイズを出す。</p> <p>・ペアを組んで交流しながら活動する。</p> <p>A児(I・A)とC児(S・K) B児(K・Y)とD児(H・Y) E児(N・R)とF児(W・K)</p> <p>・本時の流れを順番に追う。</p> <p>・「あいうえおのうた」を読む。</p> <p>・仕組みの確認をする。 (文頭の母音が「あ」) (4文字が多い) (後ろの文字がにている言葉がある。 「あやとり」「いすとり」など)</p>	<p>◆答えに悩む可能性のある児童には、あいうえお表など、ヒントとなるものを渡しておく。</p> <p>◆関係性や特性を考えたペアを意図的に組む。</p> <p>☆全体的な様子を見つつ、F児の支援をする。 (はじめはフリースペースから)</p> <p>◆本時の学習の流れをホワイトボードに示し、児童が意欲や見通しを持てるようにする。</p> <p>○音読の際には、口の形がはっきりわかるように発声する。 (強弱・速さ・間などに気を付ける)</p> <p>◆発音が不明瞭になった場合はゆっくり発声するようにし、正確な発音がわかるようにする。</p> <p>☆F児に発言を促す(様子を見ながら)</p> <p>○「あいうえおのうた」を拡大したものを用意する。</p>
展開	<p>こもれびがっきゅうの「あいうえおのうた」をつくろう。</p>		
終末	<p>4、ペアで「あいうえおのうた」作りを行う。</p> <p>○ペアで引いた短冊の「あかさたな」を使ってうたづくりをしてみよう。</p> <p>○友達と一緒に作る時はどんなことに気を付けたらよいでしょうか。</p> <p>○二人でどこをつくるか相談してから作ってみよう。</p> <p>5、作った歌を発表する。</p> <p>○作った短冊を模造紙に貼る。</p> <p>○2人で読んで発表してみよう。</p> <p>○次回は完成させてみよう。</p>	<p>・色付きの短冊を使ってうた作りをする。</p> <p>・短冊の作り方を確認する。</p> <p>・ペア活動の関わり合いの仕方と作り方を確認する。</p> <p>関わり合いの仕方 (友達の考えを聞く) (「いいね！」など肯定的な言葉がけ) (勝手に決めない・進めない)</p> <p>短冊の作り方 (言葉を出す) (相談して組み合わせを決める) (短冊に書く) (読む練習をする。)</p> <p>・作った短冊を2人で読む。</p> <p>・次回の予定を知る。</p>	<p>◆どのペアがどの行を書くかはランダムに決めるようにする。(取り合いを防ぐため)</p> <p>◆相手のことを考えられるように児童から気を付けることを出せるようにする。</p> <p>☆E児・F児のペアに入り支援をする。 (F児の様子を見て、場合によっては、E児をA・C児のペアに入れる。)</p> <p>□平仮名五十音を意識して、言葉遊びの歌を作ることで、語彙を豊かにしている。 (観察・記述)</p> <p>○リズムが合わなかったり、言葉の使い方が教科書と違っていたりしても、よいこととする。特に後ろ2文字の韻を踏むのは難しいため、必要ないことをあらかじめ話しておく。</p> <p>○声を合わせて読めるように合図を出す。</p> <p>○次回の予告をし、完成させることを伝える。</p>

(4) 本時の評価

- ・平仮名五十音を意識して、言葉遊びの歌を作ることで、言葉を豊かにしている。

(観察・記述)

7. 板書計画



ホワイトボード

表

裏

- ひらがなもんだい
- ふりかえり
- うたづくり
- よんでみよう

- ① ことばをだす
- ② はなしあう
- ③ たんざくにかく
- ④ よむれんしゅう

8. 配置図

